

ひろげよう！みどりのエネルギー

さよなら島根原発！大集会



原発なくせのパワーが大結集！

七月二〇日、くにびきメッセで「ひろげよう！みどりのエネルギーさよなら島根原発！大集会」が開かれ、県内外から四一〇〇人が集まり、政府・県政・市政の原発推進路線を批判する大きなアピールの場になりました。

原発ゼロの会やしまね労連などの参加者は二〇〇名になりました。福島大復興バザーや再生可能エネルギー展、健康チェックなどもあり、集会力NPは五〇万円を超えました。昨年のみどりのエネルギー条例制定運動や今回の大集会の成功を節目に、引き続き原発に頼らない社会に転換する運動をみんなで進めましょう。



★県内外から4100人が集まった。原発をなくそうという思いはスゴさを感じた。私も原発をなくすために頑張ろうと思う。とても感動した集会だった。(MU)

★集会はたたかう元気をくれました。(SY)
(SY)

★みどりのI補* -運動は終わっていないぞ
(TH)

みどりのI補* -展示ブースもありました



福島復興支援バザー売上は50万円超！



神田香織さんのゲスト挨拶はド迫力でした

★中国各県や鹿児島、徳島からも、たくさんの人たちが集まり、さよなら原発の一つの目標に向かって決起する様は壮大で、その中に自分がいることが嬉しく感じました (KT)

集会宣言

福島第一原発事故の発生から3年4ヶ月が経ちました。この事故により大気中に放出された放射能は、広島原爆の168個分。放射能汚染水の流出防止にも失敗し、事故の収束には程遠い状態です。13万人余の被災者と7つの町村役場は故郷に帰る展望もなく、子ども達は、放射能による被曝障害に不安を募らせています。いったん事故が起これば、人間による制御がまったく及ばないのが原発災害です。福島のような事態を、二度と繰り返してはなりません。ところが安倍内閣と電力業界は新規制基準を「世界最高水準」などと偽装し、原発の再稼働に前のめりです。その新規制基準は溶融した炉心を貯留・循環冷却する施設や、航空機衝突に耐える二重構造の原子炉格納容器等世界ですでに実用化されている対策を省いています。さらには、福島原発で実測された被曝線量、従来の原子炉立地審査の基準を超えたため、立地審査基準そのものまで廃止してしまいました。原発再稼働に不都合な基準を取り除いた新規制基準で審査しても、「いのち」の安全はなんら保障されません。私たちが今、「さよなら島根原発！大集会」を開催しているこの会場から9.8キロの至近距離には中国電力の島根原発があります。全国の県庁所在都市の中で原発をもった唯一の都市それが松江市であり、30[㏎]圏内には47万人もの人々が原発事故の不安の中で暮らしています。ところが、中国電力は、島根県と松江市と手を組んで、立地自治体同様の「安全協定」の締結対象から30[㏎]圏内の他の自治体を排除し、避難計画だけを住民に押し付けて、再稼働に進もうとしています。しかも、島根県知事は、原発とエネルギー政策は国の仕事だといって責任を回避しています。松江市長は、広域避難計画を再稼働承認の条件にしない意向であり、実効性ある避難計画無しに再稼働が見切り発射される危険性が高まっています。そこには中国電力の企業倫理も、自治体としての住民の生きる権利を守る意思も責任感もありません。原発の再稼働を「いのち」よりも優先する、かかる行為は断じて許させるものではありません。「さよなら島根原発！大集会」も参加した私たちは大集会の名において次のことを宣言します。

- 一、現在及び将来の世代が、健康で文化的な安心できる生活を営めるよう、島根原発の再稼働・稼働を断念させよう！
- 一、福島のような原発災害を二度と繰り返さないために、政府・島根県政・松江市政の原発推進路線を、住民の力で転換させよう！
- 一、住民共同の力で、「みどりのエネルギー」をひろげ、原発のない安全で活気ある地域をつくろう！

2014年7月20日

ひろげよう！みどりのエネルギー～さよなら島根原発！大集会